第41回言語教授法・カリキュラム開発研究会　全体研究会
先輩から学ぼう：留学成功への道・外国語検定試験攻略

第41回言語教授法・カリキュラム開発研究会全体研究会は、国際言語文化センター主催にて、「先輩から学ぼう：留学成功への道・外国語検定試験攻略」というテーマで2016年６月29日（水）16時30分から甲南大学２号館１階グローバルゾーン・ポルトで開催され、61名の参加者があった。

◆ 開催日時　　2016年６月29日（水）　16時30分～19時00分
◆ 受付時間　　16時00分～17時15分
◆ 開催場所　　研究会：甲南大学２号館１階 グローバルゾーン・ポルト
　　懇親会：甲南大学２号館１階 グローバルゾーン・ポルト
◆ 次　　第

[司会]　国際言語文化センター　准教授　吉田桂子

＜第１部＞　　第２外国語：留学成功への道・外国語検定試験攻略 アドバイス

16:30 ～　　留学報告　　甲南大学卒業生・在校生　４名
　　ドイツ語　　本郷友崇
　　フランス語　定優希実
　　中国語　　坂口璃帆
　　韓国語　　佐々木紫乃

[司会]　国際言語文化センター　教授　津田信男

＜第２部＞　　英語：留学成功への道・TOEFL iBT 攻略 Q&A

17:15 ～　　留学報告・検定試験対策　甲南大学在校生　４名
　　英語　　稲田陽平
　　英語　　中野萌絵
　　英語　　橋川航
　　英語　　福井千尋

18:00 ～　　まとめと閉会の挨拶　　国際言語文化センター　教授　胡　金定
18:10 ～　　懇親会

第１部　第２外国語：留学成功への道・外国語検定試験攻略 アドバイス

留学報告：

１.ドイツ語　本郷友崇（経営学部４年生）

- 留学先：ドイツ
- 留学プログラム：文部科学省「トビタテ留学！ JAPAN 日本代表プログラム」
- 留学期間：11ヶ月
- 留学年度：2015～2016年

留学を目指す皆さんにとって少しでも楽しく役に立つ話ができたらと思う。今回の研究会全体のタイトルが「留学成功への道」となっている。自分が成功したかどうかはまだわからないが、留学により自分の人生が大きく変わったと感じるので、今日は「今後の人生60年間を変える今しかない若い時間 留学」というタイトルでお話ししたい。

私は文部科学省と民間企業の協力による「トビタテ留学！ JAPAN 日本代表プログラム」で11ヶ月ドイツに留学した。留学前に本学で学んだ第２外国語は韓国語であった。よってドイツ語の知識はゼロの状態からの留学であった。長期留学への不安も大きかった。小学校からサッカーをしており、勉強は嫌いだった。勉強嫌いな方でも留学に行けるので、ぜひこのトビタテ留学！に挑戦してほしい。

まずトビタテ留学！には、いくつかの利点がある。最大で月に20万円と、かなりの費用をカバーしてくれること。将来の夢が見つかっていない場合は見つけるチャンスとなり、逆に見つかっている場合はそれを追求できること。トビタテ留学!を知っている人がこの中にあまりいないようなので、ビデオで紹介する。ビデオを見て大体内容を理解してもらえたと思う。

私は１年次にスペインにサッカー留学し、その経験をもとに今度はドイツへ11ヶ月サッカー留学をした。このトビタテ留学！は、語学だけでなく、自分が本当にやりたいことがあれば、その費用を補助して留学させてくれる素晴らしい制度である。

家族に「いっぱい変わってくるから」と言い、張り切って出発。ドイツに到着したその日に携帯を盗まれた。どこにいるかもわからない状態。警察に被害を届けに行ったが、ドイツ語、英語ともわからず、適当に“Yes, yes.”と言っていたら、銃を突きつけられ、撃たれそうに。警察から大使館に電話をしてもらい状況を説明したら、「あなたは今殺されそうな状態だ」と言われた。その時得た教訓は、「他人事ではなく、自分の事としてしっかり考える」、「死ぬこと以外はかすり傷」、「経験が全て」ということだった。

最初に直面した語学の壁は、様々な方法で乗り越えた。音楽を聴き、単語を覚えるために書いた付箋をあらゆるところに貼るなどして勉強したが、一番の方法は、友人と食事や旅に行くことだった。ぜひ皆さんにも、本と向き合うだけでなく、人とも向き合って欲し

い。

言語ができるとパーティーができ、友達ができ、サッカーができるようになり、最初は勉強する対象であった言語が、徐々に相手を理解し共に楽しむために必要なものとなった。このように語学の概念がまるっきり変わった。

さらに皆さんに言いたいのは、「留学に失敗はない」、「失敗こそが成功！！」ということ。私自身もたくさん失敗したが、それこそが成功であったと思う。留学前に抱いていた長期留学への不安が、留学後には海外で働くことや日本を代表するグローバルリーダーになる夢へと変わった。実際に留学後文部科学省スポーツ庁インターンに参加。さらに語学だけでなくすべての勉強が好きに。

皆さんにして欲しいこと。

今：家族に「変わって帰ってきてもビックリしないでね」と伝えておく。

留学中：日本ではできないことをする。

帰国後：新たなステップを見つけて頑張る。

2. フランス語　定優希実（2015年文学部歴史文化学科卒業）

- 留学先：イギリス
- 大学名：リーズ大学
- 留学プログラム：奨励留学
- 留学期間：６ヶ月
- 留学年度：2012～2013年
- 大阪の化学品を扱う商社に勤務中

本郷さんの面白いお話の後で恐縮だが、私はフランス語の中村典子先生とシッシュ先生より、フランス語の検定試験に対する攻略法について話して欲しいとお願いされ、今日久しぶりに母校にやって来た。今日は、1. 在学中の外国語学習、2. 外国語検定試験攻略の実際、3. 商社勤務の会社員としての外国語に対する考え、を順にお話しする。

在学中は英語とフランス語を熱心に学んだ。１年次に留学のための英語集中コースに入り、週４つの英語科目を履修。２年次国際言語文化科目英語インテンシブコースを選択。2012年10月から2013年３月まで奨励留学でイギリスのリーズ大学に留学。第２外国語はフランス語を学んでいたので、留学中にユーロスターでフランスを２度訪れ、パリではなるべくフランス語で話した。帰国後３年次に中級フランス語４科目をすべて受講したところ、それぞれ別のアプローチで繰り返し学ぶことができたため、留学前にわからなかった文法が急速に理解できるようになった。夏に再度パリを訪れたら、カフェの店員さんとも会話を楽しめるようになっていた。４年次でも上級フランス語を２科目受講し、４年間でフランス語８科目をすべて履修した。何より良かったのは、学生時代に英語だけでなくフランス語も学んだことである。２つの言語を学ぶことにより、英語学習だけでは気づかない点があることがわかった。フランス語を学ぶことで、英語の新たな側面を知ることにも

つながり、英語学習にもプラスとなった。例えば、英語はフランス語に比べ発音が不規則であること。抽象名詞は英語とフランス語で同じ綴りであることも多く、一方の言語で意味を知っていれば他方の言語でも意味を類推できることがわかった。フランス語と英語は60%ほど語彙を共有していると聞いたことがある。フランス語がわかると、お店の名前の意味など日常的にわかることも増え、楽しく思えた。この場所もポルトと呼ばれており、フランス語の「扉」という意味で、日常にフランス語があふれている一例と言えるだろう。また、フランス語の単語には男性・女性・中性名詞などがあるが、ドイツ語で見られるような格変化が無く、そういう意味では簡単だと感じることもある。

次に検定試験攻略の実際についてお話しする。在学中に２回フランス語検定試験を受験。2014年春３級に合格、４年次で準２級に挑戦するも１点足りず不合格となった。悔しかったので再挑戦しようと決めた。2015年１月にパリでテロがあったが、１年近くパリに行っていなかったので、３月に渡仏。滞在中は情報収集を行い、先生方にも相談し、無事に帰国した。４月に就職した後も６月のフランス語検定試験に向けて、通勤中に辞書で語彙と構文を学ぶなどして勉強を続けた。準２級の１次試験に合格した際、中村典子先生に連絡したところ、２次試験の面接の練習をしましょうと言ってくださったのでお言葉に甘えて対策を教えていただき、無事合格することができた。今は２級合格を目指している。

最後に商社に勤める社会人として外国語をどのように考えているかをお話しする。現在勤めているのは化学品を扱う商社で、私は事務職員であるが、営業職の人は大半が英語＋１言語を話す。中国語、タイ語、インドネシア語を話す人もいる。今後発展する可能性のある国の言語や、習得者の数が少ない言語をマスターしておくと、自分自身の分野で専門性をより高めることができ、ビジネスでは有利であると感じる。英語のみ習得しているよりも、ビジネスのチャンスがより広がる。また英語に比べ、第２外国語は手に入る教材が少なく、社会人になると学習にさける時間も少なくなる。多くの言語に触れる機会を増やすなら、学生時代を有効に使うべきだと思う。また歴史的な視点から共通の背景を持つ複数の言語に興味が湧いてくることもある。これは英語のみを学んでいたのでは体験できないことである。学生の皆さんには、英語以外の言語も学び、学生時代を有意義に過ごして欲しい。ちなみに、上級フランス語のクラスメートは、英語、フランス語からラテン語に興味を持ち、さらにドイツ語への興味が芽生え、ドイツ語の難関試験を突破し、ドイツのフンボルト大学に留学している。実は来月休暇をとって、パリとそのクラスメートがいるベルリンに行く予定。クラスやフランス語の強化合宿で共に学んだクラスメートは、気心も知れているし、頼りにもなる。

以上が私の報告である。皆さんの少しでもプラスになることがあれば光栄である。

３.中国語　坂口璃帆（法学部４年生）

- 留学先：台湾
- 大学名：国立台北大学
- 留学プログラム：交換留学
- 留学期間：４ヶ月
- 留学年度：2015～2016年

３年次の９月から１月まで国立台北大学に留学した。私が甲南大学から国立台北大学に交換留学した学生の第１号で、今年も９月から後輩が１名同大学に留学してくれるので嬉しい。この大学を選んだのは、中国語のクラスのランゲージ・パートナーから、台湾の法律は日本の法律を基にしていると聞いたからである。法学部に在籍しているので、台湾の法律を現地で学ぼうと思った。国立台北大学は台湾の中でも３本の指に入る名門大学であり、そのような大学が協定校になっているのは大変良いと思った。

まず国立台北大学について説明する。台北市と台北市の周りを囲む新北市の三峡にキャンパスがあり、私はメインキャンパスである三峡キャンパスの法律学院で学んだ。台北市からはバスとMRTを乗り継いで１時間、空港からはバスで30分のところにあり、寮に住んでいた。留学生と台湾学生の交流もあり、日本の時事問題について学ぶ大学院のゼミの研修に同行したこともあった。台湾の書道や天燈上げなど伝統文化を体験したり、季節の行事、離島への旅行も経験した。中国語のクラスでは中国語か英語を用いて学び、法律のクラスも中国語で学ぶので、かなり語学力が向上した。日常生活も中国語でないと通じなかった。

台湾に行って気づくのは、日本のテレビは台湾の綺麗なところや台北近郊、観光地については伝えるが、新しい女性総統などについてほとんど報道していないことである。一方台湾のテレビは報道内容の規制があるのか、交通事故や酔っ払った人の事件などが中心。チャンネルは200ほどあって迷う。留学中に総統選挙があったが、若者も政治に興味があり、家庭ごとに支持政党があるとも聞いた。

中国語（國語）と台湾語（台語）は、英語と米語ぐらいの違いだと言われており、基本は同じで少し語彙や言い回しが異なる程度。台湾語には、日本語と同じ単語（おじさん、おばさん、うんちゃん、たたみ）がある。私の語学上達方法は、映画、ドラマを観ること。方言が多いので、映画やドラマには標準方言の字幕が付いている場合が多く、学習向き。音楽も上達要因の一つ。留学前に中国語検定３級に挑戦。リスニングは良かったがライティングの点数が足りず不合格。留学後に再挑戦したところ、ライティングが合格点を上回っていただけでなく、リスニングが100点満点中95点になっていた。台湾の学生にも言語が上達したねと言われたことが嬉しかった。

4.韓国語　佐々木紫乃（2015年文学部日本語日本文学科卒業）

- 留学先：韓国
- 大学名：漢陽大学
- 留学プログラム：夏期海外語学講座、交換留学
- 留学期間：４ヶ月
- 留学年度：2013年，2014年
- 神戸大学大学院人文学研究科博士課程前期課程在学中

現在神戸大学大学院で、韓国文学を研究している。発表の場をいただき感謝している。拙い発表ではあるが、これから留学する皆さんの少しでも役に立てばと思う。

簡単に甲南大学での４年間を説明する。2011年４月に入学。１年次に韓国語を第２外国語として選択。これが韓国語との出会いで、その後これ程まで長く学ぶことになるとは思わなかった。２年次にもっと学びたくなり、国際言語文化科目韓国語インテンシブコースを選択。２、３年次に中級、上級韓国語を受講。３年次夏期海外語学講座に参加し、漢陽大学で３週間学んだ。その翌年２月から８月まで漢陽大学に交換留学した。１年次から留学の際も、金泰虎先生には大変お世話になった。

自己流の勉強法についてお話ししたい。はじめは自分で教材を購入してきたが、面白く感じなかったので、自分にあった勉強法を模索しながら様々な方法を試した。韓国語のウェブページで芸能ニュースを読む。k-pop の歌詞の言葉を調べる。漫画の説明を韓国語のウィキペディアで読む。韓国語のドラマを韓国語音声＋日本語字幕で観る。日本語漫画の韓国語版を読む。韓国語のラジオを YouTube で聴く。一般のニュースは難しく、知らない単語も多く速いので、芸能ニュースにするなど工夫。この自己流の勉強が功を奏して、韓国語検定試験の上から２番目に難しい５級に合格。この自己流勉強法は、留学中の長文読解や作文にも役立った。語学の勉強は参考書だけでなく、周りにあるたくさんの教材となり得るものの中から、自分にあったものを選んで楽しく続けるのがよいだろう。最初は自信がなかったが、この勉強法のおかげで留学にも行けたと思う。

次に留学のために大事なことをお話しする。私の自己流勉強法の中心は、とにかく単語・文法を覚えることであったため、読み・書きが中心であった。留学して気付いたのは、聞く・話す力の不足だった。コミュニケーションで困る場面もあった。この経験から、バランスよく勉強することが大切だと皆さんにお伝えしたい。バランス良く学んでいるつもりでも、聞く・話すには話し相手が必要なため後回しになり、自然と読む・書くことに偏りがちである。なので、聞く・話すことに重点を置くぐらいでも良いだろう。

最後になるが、様々なことに恐れずに挑戦することが留学の成功につながると思う。

第２部　英語：
留学成功への道・TOEFL iBT 攻略 Q&A

[司会]　国際言語文化センター　教授　津田信男
英語　稲田陽平
英語　中野萌絵
英語　橋川航
英語　福井千尋

留学報告・検定試験対策：

■４名の紹介

１. 英語　稲田陽平（経営学部４年生）
- 留学先：アメリカ
- 大学名：ニューヨーク州立大学バッファロー校
- 留学プログラム：語学プラス交換留学
- 留学期間：11ヶ月
- 留学年度：2014～2015年

２. 英語　中野萌絵（文学部人間科学科４年生）
- 留学先：アメリカ
- 大学名：スノーカレッジ短期大学
- 留学プログラム：奨励留学
- 留学期間：１年
- 留学年度：2014～15年

３. 英語　橋川航（文学部英語英米文学科２年生）
- TOEFL iBT 交換留学基準 突破

４. 英語　福井千尋（文学部英語英米文学科４年生）
- 留学先：カナダ
- 大学名：カールトン大学
- 留学プログラム：交換留学
- 留学期間：９ヶ月
- 留学年度：2015～2016年

■学生さんからの留学に関する質問

Q1. TOEFL iBT 受験には最低どれくらいの準備期間が必要か？

A1. 稲田：１年次の６月30日に第１回受験、37点。11月の受験に向けて半年ぐらいかけて

準備。留学前に59点。留学後61点。

中野：夏に４ヶ月間集中して準備。40点代後半から60点代前半まで上がった。

橋川：入学してすぐ準備を開始し、約１年間。

津田教授：平均して30～40点から50～60点まで上がるのに１年ぐらいかかる。

Q2. スコアを上げるために行った勉強法は？役に立った勉強法は？

A2. 稲田：時間数を稼ぐ。英語で映画を観るなどして、自信をつける。尊敬するアイズウィック先生に出会い、毎週水曜日にスピーキングの問題対策をしてもらい、授業内では毎週４つエッセイを書き、添削してもらった。

中野：すぐに点数が上がりそうなリーディングとライティングをした。単語の本を１冊マスターし、文法書も１冊をマスターした。単語がわかれば、リーディングの読解につながり、文法がわかればライティングの点数につながると考えた。

橋川：津田先生の夏期集中 TOEFL 講座を利用したり、自分でリスニング問題を研究し勉強した。30点台から60点台に上がった。

Q3. TOEFL iBT のスピーキング対策は？流暢に話せるようになるために何をしたか？

A3. 稲田：先生とスピーキング対策をした。TOEFL のスピーキングの解答にはテンプレート（形式）があり、まずは序論で自分の意見を、本論で理由を２つほど、結論は言えたら言う。ひたすらその練習。

中野：一人で練習。解答形式を決めて、学んだ文法を盛り込んで解答する練習。

橋川：言いたいことを英語にする練習。歌詞などを覚えて言えるようにする発音練習。

Q4. 英単語は勉強したか？

A4. 稲田：TOEFL 単語3800という本を覚えた。

中野：とにかく１冊単語の本を持ち歩き、覚えた。

橋川：１冊を覚えた。

Q5. 具体的に役立った本は？

A5. 稲田：TOEFL 単語3800と過去の問題。隙間時間に単語学習と iPod を聴く。

中野：お金をかけないように大学受験用の単語と文法の参考書。TOEFL リスニングとオンラインで検索して出てくる音声を聴く。

津田教授：TOEFL iBT は2007年ごろに日本でも始まり、それ以来ずっと教えてきて気付いたのは、点数が取れる人には以下の２つの特徴があるということだ。

１．粘り強い

２．Grit: 目標に向かって努力し自己管理できる

津田教授：ディズニー・プログラムについても質問が来ている。出願条件を TOEFL iBT54点と設定したが、54点で十分という訳ではない。出願時点でまずは54点は取得しており、さらに半年後実際のプログラムに参加する時点では最低60点は取得しておいて欲しい。

Q6. 留学した時に TOEFL iBT60点で英語力としては十分だったか？

A6. 稲田：iBT61点で十分だと思ったことはない。正規留学生は70～80点で入学してきているので、その分差があり、頑張らなければならない。

中野：iBT が60点あっても、授業で先生やクラスメートが話していることがわからず、宿題が何かもわからなかった。内容が国語なのか理科なのかもわからないという状態だった。

福井：70点以上を取って現地に行ったが、１年次の授業を受講してもついていくのは大変。レクチャー形式の授業はわかるが、ディスカッションでは苦労した。

津田教授：iBT は120点満点のテストなので、60点では50% の理解力しかない状態でレクチャーを聴くということになるので、かなり難しいと思う。

Q7. 留学して良かったこと、困ったことは何か？授業が難しかったという以外で。

A7. 稲田：良かったのは、自分のやりたいことをしていて大丈夫だと自信が持てるようになったこと。留学したことを生かしながら今も生活できていること。困ったことはたくさんあったが、それを乗り越えて豊かな人生になったと思う。

中野：良いことも困ったことも人間関係だった。良かったことはアメリカの人やアメリカに留学に来ている多くの人と出会えたこと。困ったことは最初の１週間は英語力が無く、自信が無かったので、アメリカ人の友人ができなかった。最終的にはそれを克服し良いことに転じたので良かったと思う。

福井：良かったことは、日本人が大変少ない大学だったので、語学力が向上した。この点でカールトン大学はオススメである。最初の１、２ヶ月は現地の学生コミュニティになかなか入れなかった。それを克服するために、一年間日本語クラスの教員助手のアルバイトをした。英語を使って日本語を教えることで、現地学生との間に信頼関係ができた。

Q8. 何に一番苦労したか？

A8. 稲田：勉強や現地の食事、多国籍の友人間の喧嘩の仲裁など。治安の悪いところで交通事故に合い身の危険を感じたり、金銭的に騙されたり、事故処理にも苦労した。それらをすべて乗り越えた。

中野：勉強。短期大学に入り、卒業を目指し授業の単位を取得する必要があった。日本語でも難しい内容を英語で現地の大学生と同じように学んだ。

福井：オタワの気温差になれること。-20℃になるので大学から出られず、キャンパス内もトンネル移動でストレスが溜まった。現地の学生と楽しく話すことでストレスが少し緩和された。

Q9. 授業の様子。留学中はどのように勉強したか？

A9. 稲田：経済学、会計学を履修。甲南と同じぐらいかやや小さめのクラスサイズ。主に先生がレクチャーをし、時折学生に質問したりディスカッションしたりした。週１回レシテーションという授業があり、学習した内容の見直しをする。ほぼ毎回テストがあった。勉強がヘビーであった。朝８時起床→授業→夕方帰宅→寝る→ジム→夕食→お風呂→朝４時まで勉強→４時間寝る、というサイクル。金曜日帰宅後に長時間寝て睡眠を補う。目覚めたら遊び、土曜日は１日眠る。

中野：プレゼンテーションとディスカッションが多い。朝８時起床→授業→午後２、３時に帰宅→７時まで図書館で勉強→お風呂→夕食→図書館で夜中まで勉強。

福井：課題に追われて時には徹夜２日間ということもあった。

Q10. 専門の授業を受講した際、日本での授業とどのように違ったか？カルチャーショックだったか？

A10. 稲田：日本の先生方は熱心に研究された成果を教えてくださっているという印象だが、留学先の先生方は、学生の質問に答え、議論し、時には学生の考えが正しいかもしれないし、皆で考えるポイントだねというように、学生の意見を聞き入れる姿勢を持っており、先生と学生が一緒に学んでいると感じる。留学先の授業の中で､日本の三菱東京 UFJ 銀行などについて学ぶことがあった。

中野：ディスカッション、プレゼンテーション、課題が多い。自分から学ぶ意欲がないと単位は取得できないシビアな制度。

福井：大きな講義室でレクシャーを受けた際、数名の学生が挙手し、発言した。日本であまり目にしない光景で、これがいわゆる海外の授業だと実感し、日本にももっと導入できたら良いのではないかと思った。

Q11. 留学に行って、この勉強は役に立った、この勉強はもっとしておけばよかったと思ったのは何か？

A11. 稲田：海外に出て通じるような英語の発音の仕方を学んでおけばよかった。

中野：日本で発音の勉強をしたことがなかったので、いざ話しても、通じないことが多々あった。会話表現を勉強しておけば良かった。

福井：発音、アクセントを勉強しておらず、現地の学生とコミュニケーションをするのが大変だった。

Q12. 何年次に留学するのが良いか？

A12. 稲田：自分が行きたいと思った時、モーティベーションが一番高い時。４年次でも良いし、私のように２年次後期でも良い。

中野：お金が貯まった時。早いうちに。留学中に今後の進路が少し見えてくるかもしれないので、早く留学すれば、その分帰国後大学生活においてキャリアに結びつけていく時間を取ることができる。

福井：留学の目的次第。語学であれば早い段階。専門分野を学ぶのであれば、準備期間をしっかりとって英語力を上げてから留学する。

Q13. 留学後の就職活動は出遅れることにならないか？

A13. 稲田：３年の前期終了の時期に帰国。就職活動もアメリカで行い、みんなとは異なる就活だったが、無事に終わった。

中野：出遅れはない。その人次第。

福井：現在は大学院進学を目指す。交換留学は就職にも有利であると思うので、目指して欲しい。

Q14. 留学前にしておいた方がよいことは？

A14. 稲田：自分がどのような人間であるかを理解しておくこと。他者とコミュニケーションをする際に、よくわからない人は相手にされない。どのような人で、何をしていて、何を目指しているのかを話せた上で、相手が共感したり、興味を持ってくれる。英語の得点が高いだけで、自分を理解せずに留学すると、何をしに来たのかということになる。

中野：お金を貯めること。留学先で旅行ができる。どんな言語でも挨拶の仕方がわかれば、友人ができる。

福井：ディスカッションの仕方を、個人レベルでもクラスレベルでも練習しておくこと。授業はディスカッションが中心。

津田教授：他にも質問があったが、時間の関係ですべてを聞くことができないので、学生さんからは出なかった質問をしたい。

Q15. 授業に入ると、留学生であっても現地の学生と同じように英語ができて当たり前だとみなされることがあると思うが、その点はどうだったか？

A15. 稲田：まさにおっしゃる通り。

中野：当たり前だとみなされた。

福井：当たり前だとみなされた。

津田教授：授業内容など、逆に現地の学生から質問されることがある。

Q16. 先生は留学生を特別扱いしない。この点はどうだったか？

A16. 稲田：特別扱いされず、わからなければ質問をする。

中野：特別扱いはなく、単位も普通に落とされそうになる。

福井：全く特別扱いされない。

津田教授：質問をしなければ、先生は理解しているものと考える。

Q17. 現地の学生はどのような生活をしているか？

A17. 稲田：現地の学生も夜中まで勉強しており、一緒に勉強したり学校に通うようになって、さきほどお話したような生活スタイルになった。

中野：宿題が多いのでたくさん勉強する。メリハリがはっきりしている。月曜日から木曜日までは勉強。金曜日はパーティー。

福井：現地の学生やルームメートは２、３時まで起きており、話し声もする。起床時間が午前11時ということも。私も同じサイクルになった。

津田教授：皆さんから先輩にどうしても聞いておきたい質問はあるか？

Q18. 学生が先生に質問したりディスカッションしたりするのは、小さいクラスか？大きいクラスか？

Q18. 稲田：小さいクラスでディスカッションになることが多いが、大きいクラスでも、前の方に座っている学生は、小さいクラスと同じように先生に質問したり、ディスカッションをしたりしている。

中野：私は質問することが苦手だったので、友人に質問したり、授業後に先生に質問に行った。

福井：大きいクラス小さいクラスにかかわらず、クラスのほぼ全員が質問する。

津田教授：先生は実は質問して欲しいと思っている。日本だと授業妨害と思われるかもしれないが、そういうことはまったくない。先生のペースではなく、学生のペースに合わせて授業をしているので、むしろ歓迎される。

Q19. 奨励留学より交換留学の方が良いか？

Q19. 稲田：交換の方が良いだろう。実際に行って帰ってきた人を見ると、違いがあるように思うので、交換留学を薦める。

中野：やはり現地学生と一緒に学べる交換留学の方が良いと思う。普通の奨励留学では、英語の授業のみを受講するが、奨励留学でも、現地学生と同じ専門分野の授業を受講できるプログラムもある。私は、そのようなプログラムで、理科、数学、経済学などの授業を受講した。

福井：自分の経験から、断然交換留学をお薦めする。大変な思いもするが、良い経験

となり、就活にも生かせると思う。

津田教授：もうちょっといろいろ聞きたいところだが、時間がきたので、この辺で終わりにしたいと思う。橋川くんもありがとう。

まとめと閉会の挨拶：

国際言語文化センター　教授　胡　金定

皆さんありがとうございました。今日は８名の卒業生と在校生に学習経験を披露していただいた。もう一度８名の皆さんに大きな拍手を贈りたいと思う。

外国語学習には２つある。まずは目標、夢。これがなければ外国語学習はうまくいかない。その次は学習方法。今日８名の皆さんにたくさんの学習方法を紹介していただいた。自己流や一般的な方法があり、留学はその１つの手段である。０から留学しても良いし、かなりできるようになってから留学しても良い。学習方法は多様である。

甲南大学は、言語教授法・カリキュラム開発研究会全体研究会をこれまでに41回行ってきた。その間に模索しながら目指してきたのは、学生のために多様な学習方法を提供することである。教員も努力し、大学も皆さんをサポートしている。ここグローバルゾーン・ポルトも、細かいことを配慮して創られた場所であり、カーペットの３つの色で、皆さんが学びやすい環境にしている。赤は日本語を話すゾーンで、今日私はここで日本語を話している。これから懇親会を行うベージュのカーペットのエリアは英語のゾーン。甲南大学には他にもドイツ語、フランス語、中国語、韓国語があるので、それらはこちらの細長い Global Learning Commons というエリアで使っていただきたい。

また、もう一つ重要なのは、外国語学習や留学体験を人生にどのように生かしていくかという点である。先程のドイツ語を学んだ学生の経験談では、留学により人生が変わったと報告があった。これは価値のあることである。４年間で他の人とは違う価値を自分に付加するには、留学は良い手段である。日本でできないことが海外で経験できることがあるが、それには勇気が必要である。まず勇気を持つことが大切であり、それがあれば費用に関しては文部科学省や外国の奨学金もあるので、それらも活用していただきたい。そして甲南大学の交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学を通して留学する学生を益々増やしていきたい。今回は41回であるが、42回、その先もずっと続けていくので、言語教授法・カリキュラム開発研究会に注目をして、今後も参加していただきたい。ありがとうございました。

（文責：吉田　桂子）